

使徒の働き2章37-47節 「新しい共同体」

1A 人々の悔い改め 37-40

2A 教会の始まり 41-47

1B バプテスマから始まる交わり 41-43

2B 一つになった人々 44-47

本文

使徒の働き 2 章、37 節から見ていきましょう。前回、私たちは、聖霊が弟子たちに臨まれた後、彼らが異言を語った後で、人々が驚いているところを、ペテロが福音を宣べ伝えたところを見ました。その中心は、イエス・キリストご自身でした。マルコの福音書の最後にあるように、しるしというのは、「みことばを確かなものとする」ために、伴うものとして与えられています(16:20)。

1A 人々の悔い改め 37-40

ペテロは、イエスがよみがえられたけれども、神が主ともキリストともされた方を、あなたがたが十字架につけたのです、と、はっきりと言いました。彼らは、世界から五旬節を祝うために集まってきたユダヤ人ですが、過越の祭りも世界からユダヤ人たちが集まってきており、そこで、ピラトの前に立たせられたイエスを、「十字架につけろ」と言った群衆がいます。そして、その十字架の罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書かれていました。ですから、彼らは、たとえそこで十字架につけると叫んでいなかったとしても、ユダヤ人として主ともキリストともされた方を十字架につけたのだということで、自分の罪として受け取ったのです。

使徒たちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えました。「Ⅰコリ 1:18 十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。」私たちが、はっきりと十字架につけられたキリストを宣べ伝えること、これは必須です。

³⁷ 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、私たちはどうしたらよいでしょうか」と言った。

神のことばを聞いて、彼らが心刺されています。福音のことば、神のことばをしっかりと語って、人々が心刺されるという聖霊の働きがあります。主は、聖霊が、世の誤りについて明らかにすると言われましたが、まっすぐに語られるみことばによって心刺されるのです。パウロは若い牧者テモテに、しっかりと指導しました。「Ⅱテモ 2:15 あなたは務めにふさわしいと認められる人として、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神に献げるように最善を尽くしなさい。」そして、相手が受け入れようが、受け入れまいが、しっかりとこの務

めを果たすことを命じられています。「Ⅱテモ 4:2 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」

それで、彼らは、自分たちはどうすればよいのか？と尋ねています。ペテロが答えました。

³⁸ そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。

復活されたイエスが弟子たちに前もって、「ルカ 24:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、あらゆる国の人々に宣べ伝えられる。」と言いつけておられました。福音に必要なのは「悔い改め」です。旧約時代の預言者たちは、主に立ち返ることを語り、バプテスマのヨハネも語りました。主ご自身も、「マル 1:15・神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」と言われていました。悔い改めは、文字どおりは「思い直す」ことです。単に悲しむだけではありません。あまりにも自分の犯した罪が悲しいので、もう二度と犯さないという決意です。方向転換です。

その悔い改めによって、主は、どんなに恐ろしい罪であっても、そのすべてを赦してくださいます。エゼキエルが預言していました。「エゼ 18:21-23 しかし、悪しき者でも、自分が犯したすべての罪から立ち返り、わたしのすべての掟を守り、公正と義を行うなら、その人は必ず生きる。死ぬことはない。22 彼が行ったすべての背きは覚えられることがなく、彼が行った正しいことのゆえに、彼は生きる。23 わたしは悪しき者の死を喜ぶだろうか——【神】である主のことば——。彼がその生き方から立ち返って生きることを喜ばないだろうか。」

そして、バプテスマを受けます。これはユダヤ人にとっては、大きな変革であることを知っています。水の洗いの儀式はありますが、全身を水に浸けるバプテスマは、異邦人がユダヤ教徒に改宗する時の儀式です。自分の拠り所、自分が誰なのかを変える儀式であります。しかし、ここで彼らにとって新しいことは、「イエス・キリストの名によって」というところです。主が弟子たちに、「父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け」なさい(マタイ 28:19)と命じられていましたね。それは、主ご自身がバプテスマを受けられた時に、聖霊が鳩のような形で降りてこられて、天から父なる神が、これがわたしの愛する子であると宣言されたからです。その三位一体の神の名において、バプテスマを授けなさいということです。それと、ここは同じで、イエスの名によるバプテスマです。

すなわち、この方の死を、自分のものとします。罪に支配されている古い自分が、この方が十字架につけられ、葬られるところで、死んだとみなします。そして、自分は、この方のよみがえりにあずかり、新しいいのちを得たとみなします。これを悔い改めによって、イエスについていく者、イエスに結ばれた者、新しく御霊によって生まれた者として人々に示すのです。

そうすると、「賜物として聖霊を受けます」とあります。これは聖霊のバプテスマのことです。ここにいる人々は、聖霊に満たされて他国の言葉で語っている弟子たちの姿を見ました。その聖霊を賜物として受けるということです。つまり、だれでも悔い改め福音を信じれば、聖霊が与えられるということです。すべての人が聖霊を受けることができますのです。

³⁹ この約束は、あなたがたに、あなたがたの子どもたちに、そして遠くにいるすべての人々に、すなわち、私たちの神である主が召される人ならだれにでも、与えられているのです。」

ここでペテロは、聖霊のバプテスマの約束の普遍性を語っています。弟子たちの受けた聖霊の賜物は、他のすべての人にも与えられます。ここにいる人々はもちろんのこと、彼らの子孫もそうだというのです。これから使徒たちが福音を宣べ伝え、信じる人々にも、ずっと後世にも与えられるということです。さらには、遠くにいるすべて人ですから、異邦人も視野に入っています。ペテロ自身が後に、ローマの百人隊長コルネリウスの一家に聖霊が臨まれたのを見て、驚いていましたが、ユダヤ人ではない人々にも与えられます。そして結論が、主が召される人であれば、だれにも与えられると言っているのです。これが、聖霊の約束です。

教会によっては、「聖書の正典が完成してからは、聖霊のバプテスマのように著しい働きは必要でなくなった」という人々がいます。私は、ここのペテロの言葉から、それが誤りであると信じています。そのような人たちは、コリント第一 13 章に、賜物が廃れる時のことが書かれていて、「13:10 完全なものが現れたら、部分的なものはすたれるのです。」とあります。この「完全」は、文脈から明らかにキリストの再臨を表しています。ですから、主が既に再臨されたというのでなければ、そうでないかぎり、聖霊の賜物は廃れることなく、異言も、預言も、知識も、人々の徳を高めるために用いられ続けます。

⁴⁰ ペテロは、ほかにも多くのことばをもって証しをし、「この曲がった時代から救われなさい」と言って、彼らに勧めた。

ペテロは、もしかしたら自分の身に起こったことを証したかもしれません。自分の見て、聞いた、イエスのことを証したことでしょう。そうすると、この時代がいかに曲がっていたかが見えてきます。イエス様は、「マタ 16:4 悪い、姦淫の時代はしるしを求めます。」と言われました。数多くのしるしが行われたのに、この方をキリストと認めず、不信仰に陥り、自分の心の中の悪を放置しているその時代を、姦淫の時代と呼ばれました。偶像礼拝をしていた、バビロン捕囚前の時代のことと同じようなものだと断じたのです。

先に、ペテロはヨエルの預言を取り上げました。そこには、天変地異を含む大患難の預言がありました。神の怒りが地上に降るのです。地上に罪と不法がはびこっており、罪が天にまで積み上

げられているからです。主は忍耐深い方であり、ひとりも滅びず、悔い改めて救われることを願っておられます。しかし、定められた時に地上に苦難をもたらすようにしておられます。その時代から救われなさいと勧めているのです。

このようにして、悔い改めた人々に対して、ペテロはフォローアップをしました。フォローアップとは、悔い改めて信じた人々に、主の中にしっかり留まっているように勧めることです。何をすべきかを、いろいろと教え、これからしなければいけないことの指針を示すことです。

2A 教会の始まり 41-47

そして、教会が誕生します。

1B バプテスマから始まる交わり 41-43

41 彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。

ペテロのことばを受け入れた人で、大人の男性の約三千人が、バプテスマを受けています。彼が説教をしたのは、神殿の敷地ではないかと思われます。神殿の前には、ミクベと呼ばれる、数多くの浸礼槽がありました。また、神殿の北にはベテスダの池もあります。多くが、それぞれ手伝って、水のバプテスマを受けたことでしょう。

そして、「仲間に加えられた」とあります。ここが大事です、弟子たちが120名で心一つにして祈っていた時に、すでにそこにはいい意味での「仲間」がありました。その中に加わったのです。これから、使徒の働きには「仲間」という言葉が多く出てきます。一つになっているということ、共同体であるということが、神のみこころの大きな部分が占めていることが分かります。

私たち教会が見逃している、主のみこころがあります。それは、私たちが教会として一つになっているところで、人々への神の救いが行われていくことです。主が、捕えられる前に祈られた祈りを見てください。「ヨハ 17:23 わたしは彼らのうちにいて、あなたはわたしのうちにおられます。彼らが完全に一つになるためです。また、あなたがわたしを遣わされたことと、わたしを愛されたように彼らも愛されたことを、世が知るためです。」父と子が一つであるように、私たちが子にあって一つになっている時に、世が神によって愛されていることを知る、とあります。

そこで、次から見る、新しい共同体、教会が、いかに一つになっているかを知ることになります。

42 彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。

生まれたばかりの教会が、どのようなことをしていたか。ここに四つのことをしています。第一に、

「使徒たちの教えを守」ることです。これが第一の特徴でした。使徒たちは、主イエスから、ご自身が命じたことを守るように教えなさいと命じられていました。「マタ 28:20 わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。」と言われていました。使徒たちが行っていたのは、イエスが命じられたこと、そのみことばを教えることです。そしてその記録が、新約聖書です。私たちが、新約聖書をしっかりと教え、その背景になっている聖書を、神の靈感を受けた教えとして、しっかりと教えていく時に、それが教会の体裁を成していくことに他なりません。

パウロがテモテに対して、「I テモ 4:13 私が行くまで、聖書の朗読と勧めと教えに専念しなさい。」と言いつけています。しっかりと一つ一つ、今も「教え」について学び、そしてそれを守るように勧めているのです。

第二に、「交わり」です。彼らは、弟子たちの仲間があり、人々がそこに加わることが、救われた証しになっていました。ですから、交わりが大きな特徴なのです。ギリシア語では「コイノニア」と言いますが、「共有する、分け合う」というような意味合いがあります。そして、自分たちが一つになっていることを体験するのです。一つのを分け合うので、自分のものを自分のものを主張せず、それを主にあって分かち合う時に、互いに一つになることができます。「援助」という言葉にさえ訳されています。「ロマ 15:26 それは、マケドニアとアカイアの人々が、エルサレムの聖徒たちの中の貧しい人たちのために、喜んで援助をすることにしたからです。」分け与えるということによって、私たちが一つとなっていくのです。ここに大きな喜びがあります。

第三に、「パンを裂く」ことです。これは、交わりの考えにつながることです。共に食べるということで、私たちは一つになります。同じ食べ物が、体内に入ること、私たちが一つになっていることを示すのです。平和がそこにはあります。ミツパというところで、ヤコブとその甥、ラバンが互いに害を与えないということで、契約を結びました。そこで食事をして契約を結んだのです。食事をしている時に争うことはできません。パウロは、こう言いました。「I コリ 10:17 パンは一つですから、私たちは大勢いても、一つのからだです。皆がともに一つのパンを食べるのですから。」

最後の晩餐で、イエスがパンをご自分のからだとし、ぶどう酒をご自分の流される血とされて、わたしを覚えてこれらのことを行いなさいと命じられました。聖餐は、主のからだと血にあずかることによって、互いが一つであることを表します。そして、そのからだと血を共にあずかることによって、私たち自身も互いにキリストにあって一つになるのです。

そして第四に、「祈り」であります。使徒の働きを見て行けば分かりますが、彼らがいかに祈りに専念しているかが分かります。すでに 1 章で、心一つにして祈っていた姿があります。使徒たちが捕まった時も、彼らはマルコの家で心一つにして祈っていました。そして、配給について問題が出てきた時に、使徒たちは給仕を行う者たちを七人選び、「6:4 私たちは祈りとみことばの奉仕に

専念します。」と言っています。祈りがどれだけ重要視されていたかが分かります。

⁴³ すべての人に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議としるしが行われていた。

神に対する健全な恐れが出てきました。これは良いことです、聖なる御霊が働かれるところには、神への畏れが生じます。今日は、畏敬であるとか、恐れが軽視される傾向があります。なんでも対等にならなければいけないということです。教会にも、そうした軽々しさが入り込んでくることがあります。使徒の働きの教会が異なりました。後に出てきますが、アナニアとサツピラは、偽ったために、その場で倒れて死んでしまいました。主への恐れが教会にあるとき、その恐れがない人々はその場にいれなくなります。

そして、使徒たちが、多くの不思議としるしを行いました。そのことによって、神の権威と力が現れました。パウロが、バルナバとキプロスで宣教を行った時に、魔術師が福音を妨げようとした時に、パウロが宣言しました。「13:10-11 こう言った。「ああ、あらゆる偽りとあらゆる悪事に満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵、おまえは、主のまっすぐな道を曲げることをやめないのか。11 見よ、主の御手が今、おまえの上にある。おまえは盲目になって、しばらくの間、日の光を見ることができなくなる。」するとたちまち、かすみと闇が彼をおおったため、彼は手を引いてくれる人を探し回った。」こうやって、不思議やしるしに神の権威が現れるのです。

2B 一つになった人々 44-47

⁴⁴ 信者となった人々はみな一つになって、一切の物を共有し、⁴⁵ 財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた。

信者たちは、その交わり、共同体意識がとても強くなり、一切のものを共有するようになりました。これは愛の動機、自発的に行われているので、喜ばしいことです。しかし、6 章ではすでに、配給において不平等が起こっているという問題が出てきました。エルサレムの教会が困窮して、パウロなどが他の教会に援助金を募っている姿も出てきます。

またパウロは、テサロニケ人の教会で、働かずに人のおせっかいをしている者について強く戒めました。「働かない者は食べるな」とまで言いました。教会は、善意から自分の持っているものを分け合いますが、それにあぐらをかいている者たちがいれば、財政的な負担はまたたく間に大きくなります。すべての財産や所有物を売り払うということは、ここで一時的に起こったことで、他の教会では行っていないことです。けれども、大事なものは、交わりがあり、それが具体的に、物質的に行ったということです。

⁴⁶ そして、毎日心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、

47 神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださいました。

彼らは、心をつにしていました。ここも、他の教会では実践されていませんが、「宮に集まる」ことをしていました。そこで、他のユダヤ教の人たちが、各々集っていたところが、彼らは心をつにしていたのです。その一つになっていることが、ユダヤ人たちに証しになっていました。

そして、家々ではパンを裂いていました。それは、食事であるし、また主のからだを覚えて裂いた、聖餐式でもありました。家ということも、教会では強く意識します。神の家族と呼ばれ、私たちは兄弟姉妹なのです。家とのつながりが、教会では意識されることは、パウロがテモテに対して、第一の手紙で、語っているとおりです。「I テモ 5:1-2 年配の男の人を叱ってはいけません。むしろ、父親に対するように勧めなさい。若い人には兄弟に対するように、2 年配の女の人には母親に対するように、若い女の人には姉妹に対するように、真に純粋な心で勧めなさい。」

そして、「喜びと真心をもって食事をともにし」とあります。悔い改め、罪赦されたところには、大きな喜びがあります。救いの喜びがあります。そして、真心を彼らは持っていました。いぢずな心です。主に真つすぐに向かっている心です。二心ではありません。片方は世に、もう片方が神にというような心ではなく、主のみに向かっていた心です。そして、そんな喜びと真心で食事を共にしていたのです。

そこで最後に、「主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださいました」であります。救われる人が、仲間に加えられるのです。主の救いは、このように人をご自身に引き寄せるだけでなく、ご自身のからだに加えるという、横のつながりもあります。

そして、救うのは主ご自身です。私たちが加えるのではないのです。主が教会を建て上げます。イエスがペテロに言われたことばを思い出してください。「わたしは、この岩の上に、わたしの教会を建てる」と言われました。主ご自身が教会を建てるのです。

私たちに必要なのは、いかに教会に人を集めるのかではありません。まず、自分自身が悔い改めて、罪の赦しを得ているのか、その確信です。そして、全くキリストのものになったという献身です。それがバプテスマに現れています。そして、聖霊の賜物を受けることです。自分の力ではなく、聖霊の力によって神に仕えます。

そして仲間に加わることです。一つになって神を賛美します。神への恐れがあります。それから、使徒の教えを堅く守り、交わり、パンを裂き、祈ります。喜びと真心をもって食事をします。そうやって、一つにされている姿こそが証しとなり、救われる人々が加えて与えられるのです。